

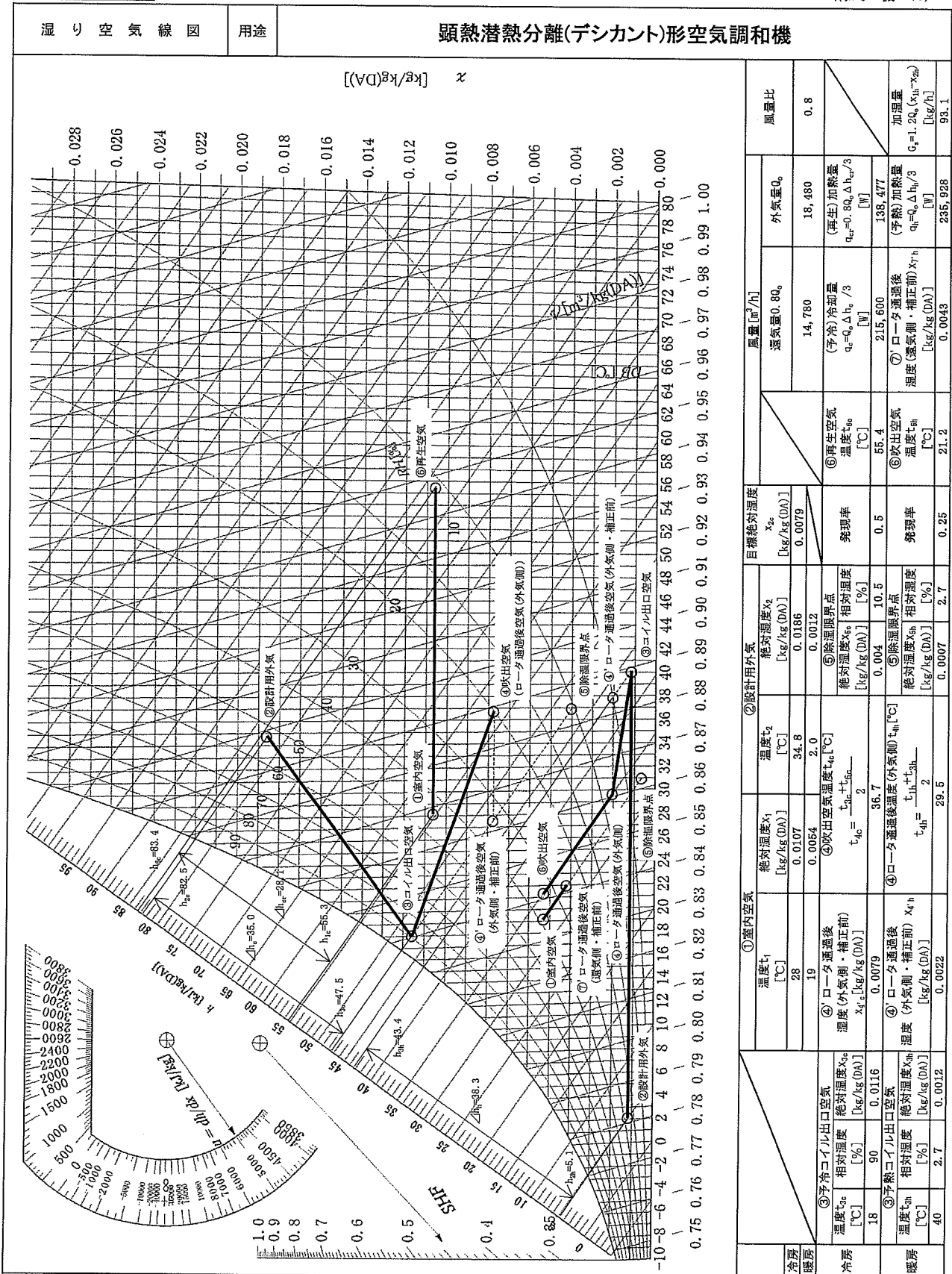
平成27年版 建築設備設計計算書作成の手引の正誤表について
第1版正誤表

頁	設備	表題	書式番号	訂正箇所	誤	正
27	電灯設備	電灯設備負荷容量集計表	様式電-4	備考(4)③	$\frac{L_{123}/3}{200} [A]$	$\frac{L_{123}/3}{230} [A]$
35	電路	電路計算書(幹線用)	様式電-8-1	表の下の算出式	$e = \frac{K' I \ell Z}{1,000} [V]$	$e = \frac{K' I \ell Z}{1,000} [V]$
35	電路	電路計算書(幹線用)	様式電-8-1	L-N-B1 許容電流[A]	63.0[A]	70.0[A]
35	電路	電路計算書(幹線用)	様式電-8-1	L-N-1 許容電流[A]	30.8[A]	36.4[A]
35	電路	電路計算書(幹線用)	様式電-8-1	L-OA-1 EM-CET14の許容電流[A]	60.2[A]	63.7[A]
35	電路	電路計算書(幹線用)	様式電-8-2	L-OA-1-2 EM-CE5.5 ϕ -3Cの許容電流[A]	35[A]	41[A]
36	電路	電路計算書(分岐配線用)	様式電-8-2	表の下の算出式	$e = \frac{K' I \ell Z}{1,000 \times A} [V]$	$e = \frac{K' I \ell Z}{1,000 \times A} [V]$
38	ケーブルの許容電流計算書	ケーブルの許容電流計算書(ケーブルラック配線:単相)	様式電-9	1 L-N-1	ケーブル 許容電流[A] 44 低減率を考慮した許容電流[A] 30.8	ケーブル 許容電流[A] 52 低減率を考慮した許容電流[A] 36.4
38	ケーブルの許容電流計算書	ケーブルの許容電流計算書(ケーブルラック配線:単相)	様式電-9	2:L-N-2	ケーブル 許容電流[A] 110 低減率を考慮した許容電流[A] 77	ケーブル 許容電流[A] 120 低減率を考慮した許容電流[A] 84
38	ケーブルの許容電流計算書	ケーブルの許容電流計算書(ケーブルラック配線:単相)	様式電-9	3:L-N-3	ケーブル 許容電流[A] 110 低減率を考慮した許容電流[A] 77	ケーブル 許容電流[A] 120 低減率を考慮した許容電流[A] 84
38	ケーブルの許容電流計算書	ケーブルの許容電流計算書(ケーブルラック配線:単相)	様式電-9	4:L-N-4 ~ 11:L-G-5	ケーブル 許容電流[A] 86 低減率を考慮した許容電流[A] 60.2	ケーブル 許容電流[A] 91 低減率を考慮した許容電流[A] 63.7
42	電路	短絡電流計算書(三相3線)	様式電-10-2	③電源%インピーダンス	142.89	142.890
42	電路	短絡電流計算書(三相3線)	様式電-10-2	②電圧総合%インピーダンス	13.76	13.79
58	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-3	選定の RG_3	始動中の RG_3 用の Z'_{mp} とする。	$\Sigma ②$ と $\Sigma ⑥$ を比較し、大きい値の方の Z'_{mp} とする。
58	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-3	選定の RE_2	$\Sigma ③$ と $\Sigma ⑤$ を比較し、...	$\Sigma ②$ と $\Sigma ④$ を比較し、...
58	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-3	選定の RE_3	$\Sigma ③$ と $\Sigma ⑧$ を比較し、...	$\Sigma ②$ と $\Sigma ⑦$ を比較し、...
58	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-4	選定の RG_3	始動中の RG_3 用の Z'_{mp} とする。	$\Sigma ②$ と $\Sigma ⑥$ を比較し、大きい値の方の Z'_{mp} とする。
58	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-3	選定の RE_2	$\Sigma ④$ と $\Sigma ⑥$ を比較し、...	$\Sigma ③$ と $\Sigma ⑤$ を比較し、...
58	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-3	選定の RE_3	$\Sigma ④$ と $\Sigma ⑨$ を比較し、...	$\Sigma ③$ と $\Sigma ⑧$ を比較し、...
58	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-3	選定の RE_3 用	$\frac{1}{Z'_{mp}} = \frac{1}{Mp} \cdot ⑧$	$\frac{1}{Z'_{mp}} = \frac{1}{Mp} \cdot ⑦$
69	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-3	選定の RG_3	始動中の RG_3 用の Z'_{mp} とする。	$\Sigma ②$ と $\Sigma ⑥$ を比較し、大きい値の方の Z'_{mp} とする。
69	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-3	選定の RE_2	$\Sigma ③$ と $\Sigma ⑤$ を比較し、...	$\Sigma ②$ と $\Sigma ④$ を比較し、...
69	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-3	選定の RE_3	$\Sigma ③$ と $\Sigma ⑧$ を比較し、...	$\Sigma ②$ と $\Sigma ⑦$ を比較し、...
70	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-4	選定の RG_3	始動中の RG_3 用の Z'_{mp} とする。	$\Sigma ②$ と $\Sigma ⑥$ を比較し、大きい値の方の Z'_{mp} とする。
70	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-3	選定の RE_2	$\Sigma ④$ と $\Sigma ⑥$ を比較し、...	$\Sigma ③$ と $\Sigma ⑤$ を比較し、...
70	発電設備	非常用発電設備計算書	様式電-14-3	選定の RE_3	$\Sigma ④$ と $\Sigma ⑨$ を比較し、...	$\Sigma ③$ と $\Sigma ⑧$ を比較し、...
116	空調和設備	顕熱潜熱分離(ダブルコイル)空調和機	様式機-10	(顕熱)冷却量の数値の訂正	(顕熱)冷却量 28.196 [W]	(顕熱)冷却量 26.106 [W]

117	空気調和設備	顕熱潜熱分離(デシカント)空気調和機	様式 機-10	湿り空気線図上の絶対湿度位置の訂正	冷房 ④'ローター通過後空気④吹出空気 絶対湿度 0.0081 kg/kg[DA] 暖房 ④'ローター通過後空気⑥吹出空気 絶対湿度 0.0019 kg/kg[DA]	冷房 ④'ローター通過後空気④吹出空気 絶対湿度 0.0079 kg/kg[DA] 暖房 ④'ローター通過後空気⑥吹出空気 絶対湿度 0.0022 kg/kg[DA]
117	空気調和設備	顕熱潜熱分離(デシカント)空気調和機	様式 機-10	冷房数値表の目標絶対湿度及び④'ローター通過後の湿度の訂正	冷房 目標絶対湿度0.0078 kg/kg[DA] ④'ローター通過後空気④吹出空気 絶対湿度 0.0078 kg/kg[DA]	冷房 目標絶対湿度0.0079 kg/kg[DA] ④'ローター通過後空気④吹出空気 絶対湿度 0.0079 kg/kg[DA]
119	空気調和設備	顕熱潜熱分離(デシカント)空気調和機	様式 機-9	湿り空気線図上のポイントからのエンタルピー引出線の訂正	暖房 ①からのエンタルピー引出線	暖房 ③からのエンタルピー引出線
127	空気調和設備	顕熱潜熱分離(ダブルコイル)空気調和機	様式 機-23	顕熱コイル 冷却能力 H_{CR} 欄	コイル冷却量=28,196 $H_{CR}=1.05 \times 28,196=29,606$ 29.6 [W]	コイル冷却量=26,106 $H_{CR}=1.05 \times 26,106=27,411$ 27.4 [W]
127	空気調和設備	顕熱潜熱分離(ダブルコイル)空気調和機	様式 機-23	顕熱コイル 冷温水量 L_{cwr} 欄	$L_{cwr}=14.3 \times 29.6/5=84.7$ $L_{cwr}=85$	$L_{cwr}=14.3 \times 27.5/5=78.4$ $L_{cwr}=79$
127	空気調和設備	顕熱潜熱分離(ダブルコイル)空気調和機	様式 機-23	設計仕様、形式、送风量 欄	送风量[m ³ /h] 顕熱空調用 10,180	送风量[m ³ /h] 顕熱空調用 9,630
127	空気調和設備	顕熱潜熱分離(ダブルコイル)空気調和機	様式 機-23	設計仕様、コイル 欄	冷却能力 冷温水量[L/min] 29.6 85	冷却能力 冷温水量[L/min] 27.4 79
192	給排水衛生設備	高置タンク標識の場合	様式 機-56	高置タンク以降の給水管階の給水負荷単位同時使用流量と同時使用流量 下から1行目	4階346, 352 5階370, 376 PH370, 417 高置タンク出口給水管同時使用流量 Q[L/min] 417	4階330, 336 5階350, 356 PH350, 397 タンク出口給水管同時使用流量 Q[L/min] 397
195	給排水衛生設備	給水立主管の算定	様式 機-2	B1F系、下段	17×6	17×8
203	給排水衛生設備	瞬間湯沸器の算定	様式 機-60	加熱能力 用途欄	$H=0.0689 \cdot K \cdot Q \cdot (t_h - t_c)$	$H=0.0689 \cdot K \cdot Q \cdot (t_h - t_c)$
209	給排水衛生設備	貯湯タンク	様式 機-65	浴室用として利用する場合	時間最大予想給湯量 Q_{hm} [L/h] $Q_{hm}=q_B \cdot (45-t_c)/(t_h-t_c)+\dots$	時間最大予想給湯量 Q_{hm} [L/h] $Q_{hm}=q_B \cdot I \cdot (45-t_c)/(t_h-t_c)+\dots$
214	給排水衛生設備	給湯用膨張・補給水タンクの算定	様式 機-68	給湯用膨張・補給水タンクの算定	ρ_1 :水の密度 ρ_2 :湯の密度 Q2:給湯変動量吸収分としての容量	ρ_1 :水の密度 0.99999 ρ_2 :湯の密度 0.98336 Q2:補給水量としての容量
218	給排水衛生設備	grease 阻集器(工場製造型)よりようの算定(厨房を含む食堂面積に基づく算定方法)	様式 機-71	下らか9行目	許容阻集グリース質量	許容阻集グリース質量及びたい積残さの質量
219	給排水衛生設備	grease 阻集器(工場製造型)よりようの算定(人員に基づく算定方法)	様式 機-72	下らか9行目	許容阻集グリース質量	許容阻集グリース質量及びたい積残さの質量
233	給排水衛生設備	屋内消火ポンプ	様式 機-79	下らか12行目	$Q_{g2}=1.6 \times 2=3.2$	$Q_{g2}=1.6 \times 2=3.2$
236	給排水衛生設備	ガス配管の算定	様式 機-78	下から14行目 下から5行目 下から1行目	配管部許容圧力損失 H [Pa] 325.3 最大ガス消費量 37.6 容器の本数 0.89→1 最大ガス消費量 37.6 容器の本数 1.61→2	配管部許容圧力損失 H [Pa] 324.5 最大ガス消費量 28.22 容器の本数 0.67→1 最大ガス消費量 28.22 容器の本数 1.21→2
別紙			様式 機-11			顕熱潜熱分離(デシカント)空気調和機修正湿り空気線図

空気調和設備
熱負荷計算

(様式 機-11)



湿り空気線図

用途

顕熱潜熱分離(デシカント)形空気調和機

x [kg/kg(DA)]

冷房 暖房	①室内空気		②設計用外気		目標絶対湿度		風量[m ³ /h]		風量比
	温度 t_1 [°C]	絶対湿度 x_1 [kg/kg(DA)]	温度 t_2 [°C]	絶対湿度 x_2 [kg/kg(DA)]	還気量 $0.8Q_0$ [W]	送気量 $0.8Q_0$ [W]	外気量 Q_0 [W]	風量比	
冷房	28	0.0107	34.8	0.0186	14,780	14,780	18,480	0.8	
暖房	18	0.0116	2.0	0.0012	(予冷) 冷却量 $q_c = Q_0 \Delta t_c / 3$ [W]	(予冷) 冷却量 $q_c = Q_0 \Delta t_c / 3$ [W]	(再生) 加熱量 $q_r = 0.8Q_0 \Delta t_r / 3$ [W]	0.8	(再生) 加熱量 $q_r = 0.8Q_0 \Delta t_r / 3$ [W]
	18	90	36.7	10.5	215,600	215,600	138,477		加温量 $Q_g = 1.2Q_0(x_{in} - x_{out})$ [kg/h]
	40	2.7	29.5	2.7	0.0043	0.0043	235,928		93.1